NPO・行政・企業・地域の情報発信により、アイデアと出会いの機会を創ります。

ニュースレター　イデア

2014

10月号

つながり×ひろがる　　いちのせき市民活動センター

～もくじ～

2｜二言三言~ 一関青年会議所が目指す人そだて ~

4｜団体紹介~ 名木笠松保存会 ~(川崎)

5｜地域紹介~ 田茂木自治会 ~(室根)

6｜企業紹介~ 株式会社鈴清食品 ~(東山)

7｜センターの○○~ いちのせき市民フェスタ 14 の裏側を取材 ~

フタコト×ミコト

第5回　二言三言 8/124,717

一関青年会議所が目指す人そだて

対談者　一関青年会議所　理事長　**千葉　智充**　さん
聞き手　いちのせき市民活動センター センター長　**小野寺 浩樹**

若きリーダーを育てる

【小野寺】一関青年会議所[通称ＪＣ（junior chamber）]は、次の世代を担う20歳から40歳の青年層が、まちづくりに関する事業を通じてお互いに成長し合う活動をされていると思います。まずは、ＪＣさんが行っている普段の活動についてからお聞きしていきたいと思います。

【千葉】ＪＣは、基本「人のために活動するのが人生の喜び」だと考えています。まちづくりと、まちづくりを通しての自己研鑽、それを一緒に歩む仲間と友情を育むことを経験し、将来リーダーとなる人をつくる団体です。誰にでもリーダーになりえるチャンスはあるでしょうし、役どころが人を育てます。それをいくらかでもここで経験してもらう。私は先輩から、「ＪＣは失敗してもいい組織」とよく聞いていました。「正解だけが答えではない」と。

一関ＪＣが50周年を迎えた時の緑川理事長は、「ここに入る前は、まちのことを考えることがなかった」と話していました。私自身も、ＪＣに入ったことが地域のことを考えるきっかけになり、これからも地域を知っていけたらと思っています。最初は、地域にはこんなにたくさんの祭りがあることも、一関の「時の太鼓」のことも、蘭学者の「建部清庵」のこともわかりませんでした。これらのことを初めて知った時は驚きましたね。

それから、活動していて一関のことを知るうちに、「自分が住んでいる川崎のことを知らない」ということにも気付いたんです。

【小野寺】合併で広くなった一関を全部理解しようとしても、実際は難しいですよね。そもそもは、住んでいる地域やまちのことを知っているようで知らないのがほとんどで、誰しも最初からまちづくりをするのではなく、何かしらきっかけがあるんだと思いますし、千葉さんにとっては、ＪＣがそのきっかけだったのだと思います。

【千葉】こうしてみると、自分のまちを考えて活動したり、つくっていける人が増えていけば、自然とまちが築かれていくのだと感じました。一関には、まちづくりに取り組むＮＰＯや団体がたくさんあり、何とかしよう、楽しくしようとしている人達がたくさんいますからね。これらの人たちが一堂に会して、何かしようとしたらすごいことができると思うんです。その時は、誰がリーダーシップを発揮するのか？と考えたら、相当難しいですけどね(笑)

【小野寺】たしかに。まちづくりに携わっている団体さんや人を一堂に会すのは難しいですね(笑)

でも、「自分のまちのことを考えて活動できる人がいる」という所が、まちづくりの一番大事なところかなと感じます。やはり、まちづくりってまちにいる一人ひとりが「やりたい」という思いとか、まちに積極的に出てくるという姿勢をもたないと続かないんじゃないかと思います。引っ張る人がいる時はいいですが、引っ張る人がいなくなったときに空中分解してしまうという事例を見て思っていて、「一人ひとりがまちづくりできる人になること」が大事だと思います。

認知を広げるまでの道のり

【千葉】私がまだ役職を持っていない頃に、「一関青年会議所です」と挨拶しても、あまり話をしてもらえなかったりしたこともありました。大東の水かけ祭りや一関の夏祭りに連続して参加しても、なかなか認知が広がらず、悩んだこともありましたね。

その中で、対外的に一番認めてもらいやすかったのは青少年事業でした。去年行った姫神山の登山はしんどかったけど、参加者の方から「すごくよかった」と言ってもらえて。少しずつ口コミで「一関青年会議所の青少年事業がいいよ」と広まってきている。

【小野寺】そうですね、まちづくりは理解されてなんぼだと思います。人をつくる、人を育てつつ、なぜ？に理解されないと合意形成ができないので、理解されるということが大事だと思います。

僕達が行っている地域の会議では、地域の方々に理解していただき合意形成をとるために、何度も話し合いを重ねます。それを「また会議か」と、煩わしく感じる人が多いと思います。でも、会議がたとえ１年続いたとしても、合意形成がしっかりできていれば、２年目以降の進みが早いんです。話し合いに時間をかけることは、会社で働きまちづくりをしている人からすれば「そうじゃないだろう」と、もどかしさを感じるかもしれませんけれども。

企業活動とまちづくりの両立

【小野寺】千葉さんから見て、ＪＣの課題とは何でしょうか？よく単年度というのは聞きますが…。

【千葉】単年度制に関する課題としては、責任を持続させるのが大変だということ。実施した事業が失敗して課題が見つかっても、翌年には役職が変わり、その課題に取り組めなくなってしまうことがあります。でも、責任の期間が明確になっていることはモチベーションの維持になると思っています。一長一短ですね。それから、ＪＣの活動費は、会費や補助金から賄わなければならないので、運営の苦しさはあります。でも、助成金をとるために事業計画を立てたり、プレゼンしたりするのは育成の場になりますね。

【小野寺】皆さんは、本業が忙しい中でＪＣの事業を行っていますよね。本業の仕事よりも事業のボリュームの方が多くて、仕事そっちのけで事務所に来たりとか…。

【千葉】一番の課題はそれですね。家庭と仕事。今は昔のように、お金持ちで時間にゆとりがあるわけではなく、会員が直接プレイヤーになるということが多いです。活動に割く時間はものすごくあるので、家庭と仕事のバランスのとり方は注意しなければなりません。活動に没頭しすぎて家庭を疎かにし、家庭を壊したなんてことになったら、本末転倒ですから。

逆にＪＣのよい所は、お互いに深く知り合えるというところだと思います。深い信頼関係を築けるということは強みですね。

【小野寺】ＪＣさんでは、本来の企業活動とまちづくりをするという両輪をもっているのが、すごいと思います。ＪＣさんの経営者目線で行うまちづくりは、私達には真似したくても出来ません。経営感覚がキラリと光るまちづくりですよね。

今回の対談を振り返り、誰でもリーダーになれるチャンスがあり、それを経験できるのがＪＣだということ。自分で自分のまちを考えて活動する人が一人でも増えていけばいいなと思います。でも、まちづくりに没頭しすぎて本業の仕事や家庭を壊さないようにということは、これからまちづくりを始める方々に対して、よいメッセージになると思います。

基本情報

【一関青年会議所】
住所：〒029-0803
一関市大町 4-29 なのはなプラザ４Ｆ
TEL　0191-23-8639　FAX　0191-23-6451
WEB　http://www.ichinoseki-jc.jp

紙面で紹介しきれなかった部分は、「こぼれ話」としてブログに掲載しています。気になる方はチェック！
URL：blog.canpan.info/ichinoseki/category_15/1

団体紹介

会　長：氏家平さん（右）
元会長：浦上政雄さん（中央）
会　員：菅原博さん（左）

名木笠松保存会

～基本情報～

◆会長：氏家（うじいえ）　平（たいら）　さん
◆連絡先：〒029-0202
一関市川崎町薄衣平松 225
◆電話：0191-43-3039

地域のシンボルをみんなで守りいつまでも残したい

地域のシンボル名木笠松

国道 284 号線の川崎小学校付近から千厩町磐清水に向かう道の左手に、庭木のように立つ３本のアカマツ。その姿が広げた傘に似ていることから「薄衣の笠マツ」と呼ばれ親しまれています。この笠マツを長い間にわたってお世話してきたのが「名木笠松保存会」です。

※“かさまつ”は団体名では漢字表記ですが、地域では“笠マツ”というように、漢字と片仮名を組み合わせた表し方をするそうです。

「笠マツは川崎のシンボルです。知り合いが訪ねてくれば先ずは笠松へ案内し、その見事な姿を紹介しています」と氏家会長さんは語ります。

笠マツのある場所は川崎町薄衣柏木地内。そこは外山東部行政区に属し58戸約200人が暮らす中山間地で、氏家会長さんは外山東部行政区長を務めています。この松には「見越しの松」の異名もあり、案内板にはこのように記述されています。むかし、藩主伊達公がいたく気に入り、青葉城内に移植することを望んだ。しかし、移植が困難なことを承知していた家老が、「如何に名木と言えども、一介の路傍の木に過ぎぬ。御館にはそぐわない」と進言して諦めさせた。

地域で守る名木笠松

名木笠松、３本の古木と周囲の７本の幼松も含めて昭和 51 年に岩手県指定天然記念物に指定されました。それまでは、近くの人達の集まりである「笠松親類」が手入れをしていたそうですが、天然記念物に指定されたことを契機に、行政区全体による保存会が発足しました。

当時を知る浦上さんは「保存会は発足したものの活動資金の不足が大きな悩みでした。まずは労力を提供しようと部落全体で取り組みました。その後、県から補助金をいただくようになり活動が充実してきました」と語ります。10 年ほど前から、保存会の会長は行政区長（＝自治会長）が兼務することになり、自治会の中に笠松保存部を設けて活動しています。

会の活動は、会員総出による年３回（６月、７月、10 月）の下草刈り、木に負担をかけないために実取り作業を６月に行います。また、松くい虫防除のための農薬散布を年に３回行っています。そして、木を元気にするため発根剤を根元に散布するなど古木をやさしくいたわるように行われています。

これからも地域を見守る名木笠松

地域の皆さん方でお世話してきた笠マツでしたが、1 号木の衰弱が顕著となり伐採しなければならなくなり、伐採を前にした７月 13 日にお別れ会を行いました。慣れ親しんだ笠マツの最後の姿を目にとどめたいと大勢の皆さんが集まって別れを惜しんだそうです。「生あるものは寿命がある。その一瞬に立ち会えたことはうれしいことです」と会員の菅原さんは語ります。

約 600 年もの間地域の変わりゆく姿を見続けた笠マツ。別れを惜しみ書かれた寄せ書きには「幾百年の歴史を刻みし笠松の人々の思いを残し今　ここに終わらん」の言葉がありました。

伐採された松は、川崎支所の新築に合わせた活用や地域の子ども達がペンダントにするなど、笠マツは姿を変えてこれからも地域の様子を見守ることでしょう。

名木笠松のある笠松公園

室根町折壁・田茂木（たもぎ）自治会

地域紹介

自治会長　熊谷福男さん

～基本情報～

◆自治会長：熊谷福男　さん（１期１年目）
◆60 世帯約 210 人が暮らす田茂木地区。毎年賞をもらうという地区自慢の花壇が迎えてくれます。ほぼ全戸が加入する自治会活動は若い世代も活躍しています。

「どうせやるなら楽しんで」受け継がれる地域性

「お仮宮」の担当で自然と高まる地域力

室根山の南麓に位置する田茂木自治会は、昭和 57 年に設立。今年 4 月に自治会長に就任した熊谷さんは第 7 代目の自治会長です。田茂木自治会は、総務部・環境部・衛生部・文化体育部・女性部の５つの部編成をとっており、各部に部長・副部長はじめ数人の役員がいますが、60 代の役員は少なく、40～50 代の層が中心になっているそうです。「役員になると皆戸惑いますが、そういう時には『同じ２年の任期なら、楽しんでやろうじゃないか』という話をする。そうするとたいてい一生懸命にやってくれる」。そうした考え方が浸透しており、地区対抗の野球大会などでは 40 代が活躍、常に良い成績をあげているそう。「今年も『会長さんの就任祝いに優勝してくる』と本当に優勝してきてくれた」と、若者の活躍を嬉しそうに見守ります。

そんな田茂木地区は、先祖代々室根大祭において「お仮宮」建ての役目を受け継いできました。お仮宮建てには事前の準備も多く、実際に建てていく際には高所での作業があり、若い人たちの役目も多々。地区民約 50 人での作業は、自然な協力体制で作業が進むと言います。

そうした地域力の高さは地区内の清掃活動にも発揮されています。4 か所もある河川公園の清掃作業の参加率は 90%以上。「5 時半の集合時間なのに、5 時にはみんな集まっている。普通とは反対の時間厳守を呼びかけなきゃいけないな」。笑い話の中に地区への誇りを感じます。

毎年の楽しみ「おもっしぇあづまり」

田茂木自治会では昭和 57 年の設立時から文化祭を開催してきました。班を基本にした演芸の披露や、生け花や陶芸、手芸など、自治会員の自慢の一品を展示してきましたが、昭和 63 年からは農家組合と協力し、「どでかぼちゃ大会」を加えた収穫文化祭、その名も「おもっしぇあづまり」へと発展させました。

「どでかぼちゃ大会」では、各戸で育てたかぼちゃの大きさを競います。苗は全戸に配布し、大会には約 40 個のかぼちゃが並びます。100 kgを超すものも多くあるとか。その他、縄ない競争や梅干しの種飛ばし競争、りんごの皮むき競争など、地区内の様々な年代層が参加できるゲーム等も盛り込み、地区の一大イベントになっています。

また、去年からは地区の高齢層にも参加してもらえるようにと、敬老会と同日に開催するようにしたところ、ほとんどの人が敬老会終了後に「おもっしぇあづまり」へ参加。今後も地区住民の交流の場としてさらなる盛り上がりをみせそうです。

時代にあわせた適応は小さな工夫から

そうした小さな改善は若い世代からの声に基づくものも多いそう。２年前から始めたという年祝いを兼ねた新年会もその１つ。これまでの新年会は有志だけの集まりだったため、全戸に声をかけるようにしたそうです。これまでのところ、決して多くの住民が集まるわけではないそうですが、「全戸に声をかけることに意味があると思う」と熊谷さん。この小さな積み重ねが田茂木自治会の地域力の高さに結びついているのでしょう。

「どでかぼちゃ大会」は 10 月中旬開催。今年の出来が楽しみです。

企業紹介

代表取締役
鈴木　達郎さん

株式会社　鈴清食品

～基本情報～
◆代表取締役：鈴木　達郎　さん
◆連絡先：〒029-0303
一関市東山町松川字地蔵 150-1
◆電　話：0191-35-2700
◆ＦＡＸ：0191-35-2703
◆http://www.suzuseifoods.co.jp

大自然のめぐみと地域との関わり

これまでの道のり

赤いパッケージの「糖化納豆」を、みなさまのご家庭でも一度は食したことがあるのではないでしょうか？

農業閑散時期の副業として鈴木社長の祖父が作り始めた納豆は、大正 13 年に一関市山目の工場で製造販売を開始し、独自で開発した納豆の製法で昭和 24 年に特許を取得。その後、大豆加工食品の豆腐や油揚げ類、こんにゃく類の製造・販売にも事業を広げ、鈴木社長の父でもある先代が昭和 31 年に合資会社鈴清商店を設立しました。

一時は地元を離れていた鈴木社長でしたが販売部門の強化拡大のため帰郷。「当時はね、トラックを運転しながら売って歩いたもんだよ」と、当時を懐かしみます。昭和 53 年に株式会社鈴清食品を設立し公害対策に取り組みながら、製造ラインの強化のために、一関市中里に工場を置きました。「すべては『安全・安心』な食品をお届けするため。地域のみなさんにとって、工場が来るのは喜びだけではありません。共存するためには、いろんな思いがあると思うんです。ですから、私どもの工場がどんな工程でどのような作業をし、どのように汚水処理をしているか、地域の皆さんが納得し安心していただける様、説明会を開催しました」と語る鈴木社長。平成 20 年には、更なる品質向上のため東山町に本社工場を移転したのです。

地域の魅力と交流

時代の変化に対応しながら、約 1 世紀近くにわたって大豆を原料とした商品を供給し、古来の製法と味を守る株式会社鈴清食品。平成 20 年に本社工場を東山町に移設し現在に至りますが、なによりも、東山町松川に湧き出る水に社長は興味を惹かれたとのこと。日本百景に数えられる猊鼻渓を擁し、鉱物資源が豊富な東山町には、磐井清水という大変貴重な水資源もあります。水は大豆加工食品には欠かせない貴重な原料。「地域の皆様が大切にされている大変貴重な水資源です。それをどう活かすか。どのように地域に貢献できるかまだまだ我々は発展途中なのです」と語る鈴木社長。工場移設から 6 年、地元の安定雇用を第一に現在は開けた工場として小学生の工場見学受け入れや、東山町の夏の風物詩ともなっている「大相撲東関部屋の夏の合宿」へ豆腐提供など、地域との連携を大切にしています。

一関市の大豆加工業として

現在、同社では市内の様々な食品製造販売業とのコラボ商品を開発検討中とのこと。「市内にはさまざまな魅力を持った食品製造業があります。私たちもその 1 企業でしかありません。市内の地場加工食品をもっとアピールできるように、他社と連携しながら、地産地消･地産外消に取り組んでいきたい」と語る鈴木社長。市内食品製造販売業と、どんなコラボ商品が仕上がるのかとても楽しみです。

鈴清食品の原料調達は、アメリカ産4割、カナダ産5割、国産1割という状況です。国産の中では、ナンブシロメ、リュウホウなど岩手県産が9割、北海道産が1割とのことです。

センターの◎◎！

まる　まる

―いちのせき市民フェスタ 14 の裏側を取材―

今月は、今年で第９回目を迎えた「いちのせき市民フェスタ」の裏側をご紹介します！！本フェスタは年に一回一関管内で活動する市民活動団体や行政、企業が集まり、展示、体験ブース、販売等を通して日頃の活動を紹介し合い交流するイベントです。今年は初の試みとして、いちのせき市民モデルコレクション「イチコレ」やご当地キャラクター大集合、スタンプラリー等も行い、たくさんの来場者でにぎわいをみせていました。

1　5月～8月

インアーチ

センターが事務局を務める「いちのせき市民活動促進会議インアーチ」全体会で、出席団体へ今年の市民フェスタ開催及びテーマ等を提案し、開催に向けて企画やスケジュールを協議します。いただいたご意見を整理し、今年の計画に反映させていきます。

2　5月～8月

準備期間

参加団体の確認、企画やスケジュールの調整、各種手続き等の事務的な作業から、WEB 告知やポスター・チラシの作成・各地域への配布の周知活動等、それぞれの担当スタッフが準備に奔走しました。

3　8月30日

前日準備

一関、千厩両事務所のスタッフが会場に集まり、備品の設置や事前準備に来た参加団体のサポート、当日のスタッフの動きの確認をして本番に備えます。

4　8月31日

フェスタ当日

駐車場誘導、受付、ステージ進行、各企画参加者の誘導等、それぞれの役割をこなしながら参加者の皆さんと交流し、楽しい時間はあっという間に過ぎました。また、音響やご当地キャラクターの着ぐるみ等にはたくさんのボランティアの方々のご協力をいただきました。

市民フェスタを終えて･･･

フェスタ終了後に参加団体の方々から「フェスタで会員が増えた！」「フェスタで出会った団体さんを自分達のイベントに呼んでみる」等のご報告をいただきました。市民フェスタでの出会いや交流が皆さんの今後の活動につながっていると実感でき、とても嬉しかったです。来年はいよいよ１０周年！これからも皆さんと一緒に市民フェスタをよりよい場にしていきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

おしらせ

一関　第１回オクトーバーフェスティバル in 一関

世嬉の一酒造株式会社では、蔵ビールを家族で楽しめる秋のビール祭りを開催します。お子様向けのコーナーや、ステージショーを多数ご用意。飲んで食べて、皆で楽しみましょう！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 10 月 4 日(土)10 時～17 時
平成 26 年 10 月 5 日(日)10 時～16 時
【場所】世嬉の一酒造株式会社
【料金】入場無料
【問合】世嬉の一酒造株式会社
【電話】0191-21-1144

千厩　だれでも、いつでも、どこでもできる！ スポーツ吹矢体験会

一関スポーツ吹矢協会では、年齢性別を問わず誰でも気軽に挑戦でき、腹式呼吸による健康効果も期待されるスポーツ吹矢の体験会を開催します。定員は先着 10 名で当日見学も可能です。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 10 月 7 日(火)、14 日(火)、28 日(火)13 時 30 分～15 時 30 分
【場所】千厩農村勤労福祉センター体育室
【料金】110 円(マウスピース代)
【問合】一関スポーツ吹矢協会
【電話】090-9749-0929／萩田

東山　いきいきほのぼの映画会

いきいきほのぼの映画会実行委員会では、12 月まで毎月映画を上映しています。10 月は、人生のラストパートナーを求めて婚活に挑戦した 77 歳の方の物語、「燦燦」を上映します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 10 月 17 日(金)
14 時～16 時
【場所】東山地域交流センター
【料金】入場無料
【問合】東山公民館
【電話】0191-47-2243

大東　いちのせき元気な地域づくり事業 ご当地グルメ in 大東

四ツ角商店会、一関市、一関商工会議所では、地元食材を利用した一関市内外の地域の名物料理や郷土料理、Ｂ級グルメを販売する「ご当地グルメ in 大東」を開催します。地域グルメを一度に味わえる機会をお見逃しなく。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 10 月 26 日(日)11 時～14 時
【場所】後藤工建・北銀摺沢支店駐車場
【料金】入場無料
【問合】一関商工会議所　大東支所
【電話】0191-75-2448

藤沢　第14回 まさぼう湖祭り

藤沢土地改良区では、ダム施設の一般公開や湖面パトロール体験、農畜産物フィッシング大会等を行う「まさぼう湖祭り」を開催します。豪華賞品が当たるクリーンアップウォーキングや郷土料理はっとの振る舞いもご用意します。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 10 月 11 日(土)9 時～13 時
【場所】一関市藤沢町黄海　相川ダム
【料金】入場無料
【問合】藤沢土地改良区
【電話】0191-61-1058

一関　ハロウィンパーティー2014

一関世代にかける橋では、おばけの仮装をした子どもとその保護者の方などが集まり交流するハロウィンパーティを開催します。個性的な衣装を着て、仮装コンテストで優勝を目指そう！

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 10 月 31 日(金)
受付 18 時 15 分～　開始 18 時 30 分
【場所】山目公民館
【料金】無料
【問合】一関世代にかける橋
【Fax】0191-23-9721／代表　橋本

花泉　秋の互市

花泉中央振興商店街協同組合では、花泉駅前通りを歩行者天国にし、花や野菜、工芸品や雑貨等を扱う露店が軒を連ねる、秋の互市を開催します。花泉の秋の風物詩をお楽しみください。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 11 月 1 日(土)～3 日(月)
9 時～18 時頃
【場所】ＪＲ花泉駅通り
【料金】入場無料
【問合】花泉中央振興商店街協同組合
【電話】0191-82-2437

川崎　秋の大収穫祭

道の駅かわさきでは、年に１度の秋の大収穫祭を行います。産直コーナーでは農産物等を感謝価格で販売、試食販売会や目鉢マグロの解体ショー等、目白押し企画をご用意しております。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 11 月 1 日(土)～3 日(月)
9 時～19 時
【場所】道の駅かわさき
【料金】入場無料
【問合】道の駅かわさき
【電話】0191-36-5170

室根　第 10 回 一関市むろね産業文化祭

一関市むろね産業文化祭実行委員会では、地元農産物等の品評会や特産品の展示即売、食事コーナー、森と海の幸が勢揃いする物産展等、地域の魅力が盛り沢山の産業文化祭を行います。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

【日時】平成 26 年 11 月 8 日(土)9 時～16 時
〃　9 日(日)8 時 45 分～15 時
【場所】室根きらめきパーク　体育館
【料金】入場無料
【問合】一関市役所室根支所産業経済課
【電話】0191-64-3806

今月の表紙

この写真は、東山町の猊鼻渓という地名の由来になった岩です。舟で下った先にある三好ヶ丘の岩壁にあり、獅子の鼻のような形をしており赤みがかっています。

Q&A　あなたの「知りたい」にスタッフが答えます

Q　認定ＮＰＯ法人とは何ですか？

A　運営組織及び事業活動が適正であり、公益の増進に資すると県から認められたＮＰＯ法人のことです。認定されると信頼感が高まり寄付を集めやすくなる等のメリットがありますが、「公益性は高いか」「広く支持を受けているか」等の審査基準をクリアしなければなりません。

発行■いちのせき市民活動センター　〒021-0901　一関市大町 4-29　なのはなプラザ4F　TEL0191-26-6400　Fax0191-26-6415
せんまやサテライト　〒029-0803　千厩町千厩字町 149　TEL0191-48-3735　Fax0191-48-3736
ブログはコチラ